

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-15

学校名・団体名	石巻市立鮎川小学校
HPアドレス	http://www.mediaship.ne.jp/~elsayuk/index/index.htm
コース	学校支援
活動・研究テーマ	自ら判断し、自分の命は自分で守ることができる 子どもの育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>震災後、防災教育に取り組んでいましたが、そのことが宮城県教育委員会に認められ、平成27・28年度みやぎ防災教育推進協力校に指定されました。平成28年11月10日に実践公開研究会を開催し、本校の取組を県内外の先生方に紹介しました。助成金は校内研究推進と公開研究会運営に使わせていただきました。（公開研究会研究紀要・年間指導計画・リーフレットなどは貴団体に送付済み）</p>	

1 活動時期

平成27年4月1日～平成29年3月31日まで
平成28年11月10日 公開研究会を開催

2 内容

(1) 研究目標

「自ら判断し、自分の命を自分で守ることができる子ども」を育成するには、防災に関する知識を習得させるための副読本等の効果的な活用と、これらの知識を行動へと結び付ける体験活動はどうあるべきかを、実践を通して明らかにする。

(2) 研究の視点

視点1 知識を習得・定着させる工夫 資料の効果的な活用の工夫 地区の人材活用・地域で考えられる自然災害の教材化 ICTの活用

視点2 知識を行動へと結び付ける工夫 体験活動の重視 身の回りの防災に関係する施設・設備の活用方法 体験活動を充実させるための教材・教具の工夫 防災ノートの活用

(3) 具体的取組

【知識の習得】

- ・月1回15分の「防災の時間」において、副読本を活用し災害安全に関する正しい知識を習得させる。
- ・児童・保護者アンケート等による地域・児童の実態調査に基き、習得させたい知識・技能を精選する。
- ・鮎川の災害について地域の方から教職員が学び、災害に関わる地域素材資料の開発と活用を図る。

【知識を行動へと結び付ける体験活動】

- ・防災の時間に習得した知識を、行動へと結び付ける体験活動を取り入れた授業実践を行う。
- ・防災の時間に習得した知識を、学級活動における体験活動を通して知識の深化・技能の習得を図り、それらを活用する避難訓練を行う。避難訓練を柱としたこの一連の流れをパッケージにした指導を行うことにより、知識を行動へと結びつけることができるようにする。
- ・学校安全行事を見直し、系統性を持たせた体験活動を再構成し、本校独自の年間指導計画を作成する。

3 成果

【子どもの変容】

〈自助〉

- ・地震と津波以外にも災害があることを知り、災害についての理解が深まった。
- ・地震が発生した際、だんご虫ポーズや3つのない場所で身を守るという1次避難への意識が高まった。
- ・災害の情報収集の大切さを理解し、テレビやラジオ、防災無線放送などで情報を集められることが分かり、情報収集に対する理解が深まった。

〈共助〉

- ・避難所では、約束を守って互いに助け合って生活しなければならないことや、自分にもできることがいろいろあるということが分かった。さらに自分たちでできることを進んでやろうと態度も高まった。
- ・自分たちの住んでいる鮎川のために、役立ちたいという意識が高まった。また、自分達が行っている太鼓や七福神舞が地域に元気を与えていることを体感した。

〈公助〉

- ・災害が起きた時の警察や消防、自衛隊の人たちが果たす役割について、理解が深まった。

【先生方の変容】

- ・児童の命を守るという意識が高まり、守るための知識や技能を高めるための研修を行い、専門性を高めた。
- ・地域の方を講師に鮎川の自然災害の歴史を学んだことによって、地域に根ざした防災教育を実践できた。

【保護者の変容】

- ・防災教育に力を入れ児童が変容したことによって、保護者も防災に関心が高まり、防災家族会議を開いたり、非常持ち出し袋の中身を家族で確認したりするなど実践力が高まってきている。
- ・公開研究会で保護者も運営に携わり、授業参観や講演会を聞いたことによって、児童が防災教育を受ける重要性などを再認識できた。

【地域との関わり】

- ・毎月1回、「防災だより」を地域回覧で発行している。これにより、学校の取組を理解していただくとともに、学校行事（地域合同避難訓練 サバイバル飯づくり）などに参加していただいた。